短甲　衝角付冑

【所　在　地】鹿屋市北田町 11103　鹿屋市中央公民館
【種　　別】県指定有形文化財（考古資料）
【指定年月日】昭和 41 年３月 11 日

短　甲

衝角付冑

昭和 25（1950）年６月，鹿屋市西祓川町井上の西祓川町公民館近くの道路工事中に地下式横穴墓（６～７世紀）から短甲，衝 角 付 冑，直刀などの武器・武具が出土した。短甲は鉄板を何枚か組み合わせてつなぎ，正面から開閉して着用するように蝶 番 式に作られている。槍や刀の攻撃から身を守るもので，現在の防弾チョッキと同じ用途である。衝 角 付 冑とは，形が古代の軍船（後の軍艦）の舳先に似ていることから付けられた名前である。

これらの武具は明らかに大陸系であり，北方騎馬民族が使用していた。南九州の古墳からこのような武具が出土した例は珍しく，この古墳に眠る人物は古代鹿屋方面に居た有力者と考えられる。これと同じ形のものは北九州の古墳からも出土するが，ほとんど腐蝕して完形品は少ない。